

## 富山県 新川圏域 総合水産基盤整備事業計画

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

新川圏域は、県の東部に位置しており、東端は新潟県と境を接している。圏域には、朝日町、入善町、黒部市、魚津市の2市2町を含んでいる。

圏域東端の宮崎地区は、ヒスイの原石が拾えることから「ヒスイ海岸」と呼ばれる風光明媚な地である。入善地区では、海洋深層水を用いたカキの畜養事業を行っている。黒部地区には、県内東端の産地市場があり、県東部地域の水産物の集積拠点となっている。魚津地区は、古くから蜃気楼の名所として知られ、重要な観光資源となっている。

黒部漁港、魚津港（地方港湾）には産地市場があり、県内外へ水産物が出荷されている。2市2町（朝日町、入善町、黒部市、魚津市）、5漁協（朝日町漁業協同組合、泊漁業協同組合、入善漁業協同組合、くろべ漁業協同組合、魚津漁業協同組合）となっている。

##### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況（R2）

- ・主要漁業種類：定置網漁業、刺網漁業、かご漁業
- ・主要魚種の生産量：あじ類 448 トン、いか類 436 トン、さば類 299 トン、べにずわい 251 トン、ぶり類 189 トン、はぎ類 97 トン

##### ③ 水産物の流通・加工の状況

- ・圏域東部の宮崎漁港、入善漁港、黒部漁港において陸揚げされた水産物は、主に産地市場である黒部市水産物地方卸売市場から仲買人を經由し、県内外へと出荷される。黒部市水産物地方卸売市場は、取扱量が年間約 648 トン(6 位)、取扱金額が年間 4 億円（7 位）の市場規模である。
- ・経田漁港、魚津港において陸揚げされた水産物は、産地市場である魚津漁協魚津地方卸売市場から仲買人を經由し、県内外へと出荷される。魚津漁協魚津地方卸売市場は、取扱量が年間約 2,772 トン（3 位）、取扱金額が年間約 11 億円（3 位）の市場規模である。

##### ④ 養殖業の状況

本圏域においては、海面養殖は行われていないが、入善漁港近傍の陸上施設において、入善町が取水している海洋深層水を活用し、入善漁協がサクラマスの養殖に取り組んでいる。令和2年度には、小規模ながら初めての出荷が行われ、今後の増産が期待されている。

#### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

##### 朝日町漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：79 准組合員：333 計：412
- ・県内全体の組合員数の約8%を占めている。
- ・近年の組合員数はやや減少傾向にある。

##### 泊漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：63 准組合員：126 計：189
- ・県内全体の組合員数の約4%を占めている。
- ・近年の組合員数はやや増加傾向にある。

##### 入善漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：64 准組合員：406 計：470
- ・県内全体の組合員数の約10%を占めている。
- ・近年の組合員数は減少している。

##### くろべ漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：38 准組合員：289 計：327
- ・県内全体の組合員数の約6%を占めている。
- ・近年の組合員数は減少している。

##### 魚津漁業協同組合（R2）

- ・組合員数 正組合員：205 准組合員：1,278 計：1,483
- ・県内全体の組合員数の約3割を占めている。
- ・近年の組合員数は減少している。

#### ⑥ 水産業の発展のための取組

- ・魚津漁業協同組合では、魚津港で陸揚げの多いウマヅラハギを、2月頃を中心に水揚げされる25センチ以上の大型ものを対象として、「魚津寒ハギ如月王」のブランド名で売り出している。
- ・富山県産のベニズワイのブランド化を推進し、県外産との差別化を図るため、平成

29年6月に「高志の紅ガニ」として商標登録された。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

圏域内の漁港については、整備はほぼ概成しているが、施設の老朽化により、補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化を図るとともに更新コストの平準化やコスト縮減が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

現時点でなし。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；この地域に属する漁港は、共に沿岸部での定置網漁業を主として水産物の生産・供給を行っている。
② 圏域範囲	朝日町 入善町 黒部市 魚津市	設定理由；定置網漁業により、サバ類やアジ、ベニズワイを主とした水産物の生産・供給を行っている。
③ 流通拠点漁港	該当なし	設定理由；
④ 生産拠点漁港	宮崎漁港	設定理由； ・第1種漁港であり、登録漁船数は91隻、利用漁船数は73隻。 ・陸揚岸壁は耐震強化岸壁の整備が完了している。 ・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制を整備されている。（主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み）
	入善漁港	・第1種漁港であり、登録漁船数は65隻、属地陸揚げ額は約1億円。 ・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。（主要施設の機能強化事業による耐震耐

		波対策を実施済み)
	黒部漁港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種漁港で、登録・利用漁船数は54隻、属地陸揚げ額は約2億円。</li> <li>・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。(主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み)</li> </ul>
	経田漁港	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2種漁港で、利用漁船数は66隻、属地陸揚げ額は約1億円。</li> <li>・災害発生後も圏域内の生産・流通の拠点として機能を早期に回復させる体制が整備されている。(主要施設の機能強化事業による耐震耐波対策を実施済み)</li> </ul>
⑤ 輸出拠点漁港	該当なし	設定理由；

(令和2年)

圏域の属地陸揚量(トン)	2,523
圏域の総漁港数	5
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1

圏域の登録漁船隻数(隻)	295
圏域内での輸取出扱量(トン)	不明

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	該当なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

本圏域における産地間競争力の強化を図り、消費者に安全・安心な水産物を供給するため、漁船航行の安全性や漁業者の作業効率化を図り、水産物の生産流通コストの削減を推進する。

また、地元水産業の更なる成長に向け、漁業者の漁業活動の省力化や軽労化を目的とした安全対策向上施設や就労環境改善施設の整備を推進し、水産物の生産流通コストの縮減を図り、生産量の増大と新たな販路拡大を目指す。

#### ② 養殖生産拠点の形成

本圏域における養殖生産拠点の形成は予定されていない。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全活動を行っており、水産多面的機能発揮対策事業を活用し、魚津市漁場環境保全会が行っている母藻の設置の活動について支援していく。

・県水産研究所では、貧植生海域における藻場造成の実証研究として、海藻種苗を付着させたロープを移植し、海藻が成長し卵や胞子を放出して周辺に海藻を増やす取り組みを行っている。また、モニタリングについては5年毎に、湾内の藻場の調査（種類、現存量、面積等）を実施し、藻場の生育状況を確認している。

#### ② 災害リスクへの対応力強化

本圏域内の各拠点漁港では、「富山県設計津波に関する連絡調整会議」や「県防災会議地震対策部会」によるシュミレーション調査による検討において、東日本大震災のような海溝型地震による甚大な被害をもたらす津波は想定されていないが、活断層地震による津波が想定されており、地震動や津波に備え、被災後の地域の漁業活動や水産流通が早期に再開できるよう地震・津波対策に取り組んでいる。

また、富山県湾特有の冬季風浪による「寄り回り波」による高波被害への対応が必要であり、H20の入善高波災害の後に県内全域で見直しした設計沖波による漁港の主要な防波堤等の耐震・耐津波・耐波浪対策（嵩上げ、拡幅等）を完了している。

各拠点漁港においては、主要な陸揚岸壁の耐震耐波対策による機能強化を概ね完了しており、今後は老朽化により機能低下が懸念されている漁港施設について、予防保全による計画的な補修を行う。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

黒部漁港には黒部漁協で運営する「魚の駅 生地」があり、地元で水揚げされた鮮魚や水産加工物の直販、地元特産物の物販店、飲食施設など交流人口の拡大による観光振興と地域の活性化により、地元雇用の創出と漁業者の所得向上を図る。

石田漁港には石田フィッシャリーナ（175隻収容）が整備され、河口周辺のプレジャーボートの収容基地として活用されており、黒部市や魚津市の周辺地域の海洋レクリエーションの交流拠点となっている。

入善漁港の隣接地には海洋深層水の取水施設や深層水を利用した牡蠣を提供する飲食店「入善牡蠣の星」があり、地域の交流拠点となっており、観光振興と地域の活性化を図る。

#### ② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港施設の老朽化により補修や更新が必要な施設が増加していることから、予防保全による施設の長寿命化と漁業者の就労環境の改善を図るため、防波堤等の機能保全工事を実施する。

### iii. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

・「富山県漁港環境衛生管理指針」に基づく対策（主としてソフト対策）に取り組む。

##### ② 養殖生産拠点の形成

現状では、本計画期間内での各圏域における養殖生産拠点の形成は困難である。まずは、現行の小規模養殖や新たな養殖への取り組みを推進することで、将来的な大規模養殖の可能性を模索していく必要がある。

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
該当なし					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
魚津	藻場・干潟	水産多面的

・海洋環境の変化等により、藻場の部分的な衰退がみられる海域において、藻場の保全に係るソフト対策として水産多面的機能発揮対策事業により母藻（アカモク、イシモズク）の設置を行う。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
宮崎	予防保全	機能保全	宮崎漁港	1	
黒部	予防保全	機能保全	黒部漁港	2	
経田	予防保全	機能保全	経田漁港	2	

・各漁港において、老朽化した防波堤や岸壁の補修、泊地浚渫を計画的に行い、漁港施設の長寿命化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
経田	地域活性化	地方創生港整備交付金	経田漁港	2	
石田	地域活性化	地方創生港整備交付金	石田漁港	1	

・経田漁港ではプレジャーボート係留施設の浮桟橋や船揚場設備の更新、石田フィッシュリーナでは浮桟橋の更新を行い、海洋レクリエーションの活性化による漁村地域の交流人口の拡大を図る。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
該当なし					

4. 環境への配慮事項

- ・堤防等の機能保全工事や水域の浚渫においては、工事で発生する汚濁が沿岸の漁業に影響を及ぼさないよう、汚濁防止対策や実施時期の調整を行う。
- ・岸壁の照明灯のLED化を図り、維持管理費の削減による省エネ対策を推進する。

## 5. 水産物流通圏域図

別添「富山県 水産物流通圏域図」参照



# 富山県 水産物流通圏域図

**新川圏域 生産力向上型**  
 圏域総陸揚量: 3,446t  
 圏域総陸揚金額: 15億円  
 漁港5港、港湾1港



50t未満	
50~100t	
100~500t	
500~1000t	
1000~5000t	
5000t以上	

- : 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港 (輸))
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業: 主な魚種  
 (主な漁業種が、 (巻き網・底引き網等、)  
、、 の場合は示す)
- ← : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ←... : 水産物集約 (陸送)
- ⇨ : 加工場・消費地への出荷  
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、  
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を  
 できる限り示す。)
- ← : 養殖に係る水産物の流れ
- : 養殖漁場